事例No.	2865
公表年度	R5
団体の属性	都道府県
団体名	石川県

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・人材確保・育成

事例種類	人材確保・育成

事例内容・タイトル

地域交流による高等学校活性化事業

出典

地域づくり人材の養成に関する調査研究会（第5回）

都道府県名	石川県
事　業　名	地域交流による高等学校活性化事業

概　要

○県内十数カ所の県立高校において、地域の様々な資源を題材に地域交流活動（※）を実施。活動を通じ、生徒は地域愛を醸成、教員をはじめ学校は、地域から愛される学校づくり、引いては進学率の向上を図ることを目的とする。

※鶴来高等学校（白山市）においては、白山市の自然資源である舟岡山遺跡をテーマにジオパークの全国大会に出場し、フィールドワーク等の成果を発表。
※加賀高等学校においては、地域の憩いの場所を、工場の跡建物を利用して整備。地域との関わりを令和２年度から継続して実施。
※宝達高校においては、地域清掃やプランターなどを育てたりする事業を実施。また、駅の清掃や育てたプランターのまちなか設置など町の美化なども実施。
※実施する内容や時期・期間は、学校によって異なる。

創設経緯等

○幅広い進路ニーズが求められる比較的小規模な高等学校において、生徒にとっては、地域の魅力の再発見、教員にとっては、地元中学校との連携による接続を図ることを目的に平成２５年度から実施。

○本事業は、教育委員会で指定された学校（指定校）にて実施。指定校においては、地域との対話や生徒達の様子などから実施事業を教育委員会に対して提案。教育委員会が採択することで実施となる。（１校あたり１０万程度、年間予算１２０万円、１１校にて実施。）
※県内に全日制の県立高校は３８校あるが、指定されている学校に変更はない。

事業の特徴

○地域との連携や交流を強化し、地元に愛される学校づくりを目指すとともに、地域を支える人材の育成を図る。

○生徒にとっては地域愛の醸成、教職員にとっては、指導スキル等の向上、学校にとっては学校の認知度、魅力向上による進学率の向上。地域の中学校との交流を積極的に図る場面も多々ある。

○例えば、宝達高校の町中にプランターを置く取組みなど、地域住民から感謝されるようなことは生徒にとってもやりがいに繋がっているのではないかと思う。

○「地元に愛され必要とされる学校づくりを目指すとともに、地域を支える人材の育成を図る。」ことを期待。その成果は、地域資源の再発見であったり、地域住民との交流であったり、地元産業に対する理解の促進であったり、取組みによって発現の仕方は様々。

○事業は、各学校の提案によって実施されている。地域の実情を見つめ、今後に向けて真に必要な事業を検討し事業化しており、地域との協働を通じその事業が実施できることは、学校にとって大きなやりがいになるのではないか。

市区町村との連携等
○事業の内容として、近隣小中学校の授業参観や教員同士の交流などといった取組みがある。このため市町とは密接に連携する中で事業を実施している。 ○市町村立の小中学校との交流により、高校の教員の授業力を一層高めることが可能となる。
受講費等
○生徒の費用負担はない。徴収を検討をした形跡もない。(交通費等の実費負担はあるかもしれないが、把握している範囲ではない。)
参加者属性等
○生徒本位の事業、高校１年生から３年生まで、各学校で取り組んでいる。
実施方式等
○教育委員会（都道府県）による直営。引き続き、指定校において、様々な事業提案がなされることを期待 。
受講生の反応等
○白山市にある鶴来高校のジオパークに関するフィールド活動は、全国規模の大会での活動成果の発表に繋がっている。 ○OB・OG が現役生徒の学習・進路相談等にあたるといった取組みがある。内灘高校などは頻繁に行っている。
意義等
○様々な地域交流活動を通じての、地域に愛される学校づくり、地域を支える人材の育成を図る。このような活動が地域づくりに繋がっているものと考えられる。
今後の展望
○今後とも指定校において、様々な事業提案がなされ、それらの実施を通じて、地域づくりが進むものと考えられる。
その他（募集等）
○学年の全生徒を対象としたものから、希望者によるものまで様々で、生徒の事情も勘案し実施している。学校が生徒に提案し、参加を促すようなこともある。